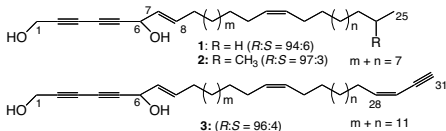


### 30【P2】 I -341

沖縄近海産 *Strongylophora* 属海綿から単離された新規アセチレンジオールの構造  
渡辺 謹<sup>1</sup>, ○大森 美紀<sup>1</sup>, 浜田 真希<sup>1</sup>, 森 剛<sup>1</sup>, 井口 和男<sup>1</sup>(<sup>1</sup>東京薬大生命科学)

【目的】 新規な天然物質の発見を指向して沖縄県石垣島近海に生息する *Strongylophora* 属海綿の成分を探索した。

【実験・結果】 *Strongylophora* 属海綿のメタノール抽出物の酢酸エチル可溶画分をシリカゲル LCC にて分離した。そのヘキササン-酢酸エチル (4:1) 溶出画分を順相 [Si gel, hexane-2-propanol (4:1)] および逆相 (ODS Si gel, CH<sub>3</sub>CN) HPLC を用いて分離し、**1** [C<sub>25</sub>H<sub>40</sub>O<sub>2</sub>, [α]<sub>D</sub> -43.8° (c 0.35, CHCl<sub>3</sub>)], **2** [C<sub>26</sub>H<sub>42</sub>O<sub>2</sub>, [α]<sub>D</sub> -33.4° (c 0.13, CHCl<sub>3</sub>)] および **3** [C<sub>31</sub>H<sub>46</sub>O<sub>2</sub>, [α]<sub>D</sub> -32.6° (c 0.44, CHCl<sub>3</sub>)] を単離した。それぞれの化合物の平面構造は NMR を中心とした各種スペクトルデータを解析して明らかにした。化合物 **1** ~ **3** の 6 位の絶対立体配置はこれらを (R)-および (S)-methoxy(2-naphthyl)acetic acid(2NMA) のエステルに誘導し、改良 Mosher 法を用いて決定した。化合物 **1** ~ **3** はすでに報告した関連化合物、strongyloidiols A-C<sup>1)</sup> と同様に鏡像異性体混合物で、その混合比は各化合物の 2NMA エステルの 1 位の水素の積分比から **1** (R:S = 94:6)、**2** (97:3)、**3** (96:4) であることがわかった。



1) K. Watanabe *et al.*, *Tetrahedron Lett.*, **2000**, *41*, 9271.